

えでぴあ

立川と語ろう 立川に生きよう

March 2016

Écoutez Bien Vol.34 No.376

3

結婚式、しようよ。

表紙の人／「立川で三代」岩下家のみなさん(柴崎町)



立川駅南口 駅前の変遷

基地の返還で大きく変わった北口。
住宅地である南口は、どう変わっていけばいいのか
変化しながら模索し続けているのかもしれない。

甲武鉄道が新宿―八王子間全線開通しても、立川駅には北口しかなかった。1922(大正11)年、陸軍が各務原から移駐、飛行場ができる人と人が増え、南口は少しずつ住宅地へと変化していった。昭和の初めまで立川駅の南側は、第一耕地整理組合が設立され翌年から碁盤の目のように区画が整い、新しい街並みができていった。昭和5年、立川駅に南口ができると鉄道は、中央線の電化、南武鉄道、五日市鉄道の開通とめざましく発展を遂げていく。

1990(平成2)年10月号のえくてびあんに次のような行がある。「(建設中の幕張メッセに比べて)立川は…。南口区画整理が少しずつ進んでいるとはいえ、駅の階段をとんとんと降りると、屋台のたこ焼き屋、パチンコ屋。とっぷりと夜にひたる頃には、赤ちょうちんからざわめきが聞こえ、パチンコの景品交換所に列をなす。(中略)競馬新聞やはずれ馬券が散乱する。だが、人がいて人の肌の分だけ温かさがある。」ここに記される区画整理は、1963(昭和38)年、当時の桜井三男市長が決断し、建設省へ申請、1966(昭和41)年に認可されたものだ。反対運動もあり、1975(昭和50)年に市民の要望を取り入れた事業計画変更が認可され、区画整理が本格的に動き出した。

人は新しい建物ができると、そこに以前あったものを忘れてしまうらしい。今の街並みがずっと昔からの街並みと思っているのかもしれないが、いやいや、南口も振り返ってみるとだいぶ変わった。いや相当変わった。平成に入ってからの変遷を武田和紀氏の写真で振り返ってみよう。未来への何かが見えてくるかもしれない。



南口上空にかかる虹 2015年9月9日えくてびあん撮影



立川南口駅前 (1981年)



南口駅前の工事が進む (1989年3月22日)



柴崎町にあった立川警察署 今はキッチンコートになっている (1995年2月8日)



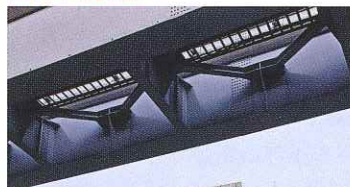
南口大通り ルミネが見える (1996年7月16日)



1997年4月 モノレールの橋脚



1999年4月5日 古い建物の解体



1999年4月5日 今もあるケヤキの木



1999年4月5日



2000年7月5日



2000年7月5日 デッキから見る東方向



2004年秋 えくてびあん撮影

人生は死ぬまで勉強

『緑豊かな健康都市立川』を守って

元立川市長 岸中士良さんの遺志を継ぎ、
武蔵野の緑を守り続けている。
お話をうかがっていると、教えられることばかりだ。

—岸中さん、本当にお変わりになりませんが、失礼ですがおいくつになられました?
岸中 いくつに見えます(笑)? 昭和3年生まれですから、もう大変な年齢ですよ。

—そうですか。お車の運転もまだされているんですか?
岸中 車は取り上げられちゃった(笑)。もう止めておきなさいって。

—そうですね。大腿骨を骨折されて昨年は長くご入院されていたんですね。
岸中 はい。この度は3か月、国立病院には2週間ほどしかいられなくて、その後は東大和にある国立のリハビリセンターにいて、でもそこはとてつもないいい病院でしたよ。

—大腿骨を骨折されると寝たきりになってしまう方が多いのによく元に戻りましたね。
岸中 そうそう(笑)。それがよくこんなに治ったって手術をされた先生が喜んでくださった(笑)。骨折は二回目だったのね。最初の時は大したことなかったんですが、二回目までに何度も何度も転んでいたんですよ。それでダメージが大きくなってのを知らなくて。ですから二度目はとてもひどい骨折だったようです。今度骨折したら終わりですよって先生に言われているので、皆さんに堪忍していただいて、ミーティングルームの方へはあまり行かないことにしています。

—それはもちろんそうなさった方がいいですよ。2007年から2008年にかけてNPO法人「グリーンサンクチュアリ悠」の活動を取材させていただき、たくさんすてきな写真

真を撮らせていただきました。昨年の夏は暑くて緑のお世話も大変だったと思います。何でも続けるって大変ですよ。

岸中 大変ですよ。ことに植物相手は手がかかりますから。現在メンバーは100人くらいいらっしゃるのですが、遠くにお住まいの方もいらして、なかなか積極的に活動するところまではね。

—今、えくてびあんで「立川の街づくり」というコーナーを連載しています。その取材の中で、頻りに岸中元市長のお名前を聞くので、改めて奥さまにお話をうかがおうと思っただけです。

岸中 そうですか(笑)。皆さんに可愛がっていただけてね。

—ご主人の岸中士良さんが市長をされていたのは昭和50年の9月から3期でしたね。

岸中 そうです。美濃部都政の時ですね。—やりにくかったことも多かったとは思いますが、ちょうど接収されていた土地が返還され、立川がどう変わっていくかという時でした。

岸中 そうなんです。それこそ、昭和記念公園とモノレールがその象徴でした。

—国の「立川基地三分割・有償下げ案」に全市民の総意で跡地の全面利用をと反対の署名活動をされたり、「立川市昭和記念公園誘致促進実行委員会」の会長として建設大臣のところへ陳情に行かれたり。

岸中 一生懸命やっていましたね。当時石川県人会がありましてね、県人会の中で誰か市長にという声があって、県人会の中では岸中が一番暴れん坊だったのでね(笑)。当時は立飛の社長が乙幡(平之助)さんで、

乙幡さんも石川県のご出身だったんです。仲良くしていただいたんですよ。

—いろいろなご縁があったということは、やっぱり時の人だったんでしょうね。とても豪胆な方だったとうかがっています。

岸中 やんちゃ坊主でしたね(笑)。後から岸中を怒ったことがあるのですが、お仲人を頼まれていてね、結婚式を諏訪神社で挙げたんです。ところがその前日に岸中が飲んで飲んで帰ってきてね、お仲人なのに、なにか原稿を書いたらいいのですがそれがどこにあるかわからない(笑)。もう、なっていないお仲人でね(笑)。だからね、何もかもできる人、ではなくて、みなさんが可愛がってくださって過ごしてきたということなんです。

—ある年齢以上の方は岸中さんのお名前をご存知なのですが、今の方は知らない。えくてびあんは創刊32年ですが、岸中元市長のことはよく存じ上げていないのです。

岸中 そうですね。今、元のクリニックに行っても、患者さんが私を誰だかご存知ない(笑)。時の流れを感じます。

—岸中先生は市長でいらしたけれどお医者さんで、高松町で開業されていましたが



岸中市長時代 岸中士良市長(右)と友子夫人(左)

岸中友子さん

昭和3年生まれ。兵庫県出身。自由学園で学び培った生き方を、立川の地で実践している。医師で立川市長を3期務めた岸中士良さんと移り住んだ幸町の一角は、懐かしい武蔵野の緑を保ち続けている。夫の遺志を自らの生きる糧として、未来に緑をつなぐためNPO法人「グリーンサンクチュアリ悠」を立ち上げたのが2008年。あまりに速い気候変動の中で、静かに緑を見守っている。

のね。

岸中 70に近い69歳で亡くなったのですが、市長の仕事は3期済ませて、その後7年生きて、自分の病院もちゃんと財団にして逝きましたね。私23歳で結婚したんです。岸中は27歳でした。結婚して能登半島に行きました。日本医大の同級生が東京へ東京へと言うので、トランクを2つ下げてとにかく来てみたら、そこは田無で私の卒業した自由学園のすぐ近くだったんです(笑)。そこで何がなんだか分からない年月を経て、それから小河内へ行き、東京都の官舎で職員さんたちと仲良くなってね。

—では、ダムに沈んだ村もご存知なんですか?
岸中 ええ、小川屋さんとか宿屋とか、食料品店とか知っています。ダムのできる前3年間いました。岸中が亡くなった時ね、岸中の学校の後輩の方がね、「奥さんね、本当に悲しいのはわかりますけれど、長生きして認知症になって迎いを徘徊して、あれが昔の岸中先生だと言ってられるよりはいいんじゃないですか?」っておっしゃったの(笑)。私、その先生の言葉が忘れられないです。だから私も生きての間は呆けちゃいけないと一生懸命なんです。

—いやあ、すごいと思います。お若いというのか、記憶力もすごいし、リハビリでまた階段も上ったり下りたりできてるし。
岸中 杖は何本でも持っていますから(笑)。多くの方のお世話になってこうしているんです。岸中がね、『緑豊かな健康都市立川』と謳って市長選をやってきましたものですから、その私がこの緑を放り出して売ってしまったのは申し訳ないと思って、私のできることはこの緑を残すことだなあと、それで皆さんのご協力を仰ぎながら、こうしています。この緑から力をもらっているんだと思います。

—樹木が34種類、灌木が20種類、実の成る木が19種類。本当に雑木林というか山のようなですね。

岸中 だから私が元気なんです。自然のオゾンというか気をもらって。この辺りは昔は「お鷹の道」と言いました。將軍様が鷹狩りをしたところ。以前えくてびあんできれいな写真を撮ってもらったりりんごの木、りんご系統は全部今年の暑さで枯れて倒れてしまいました。

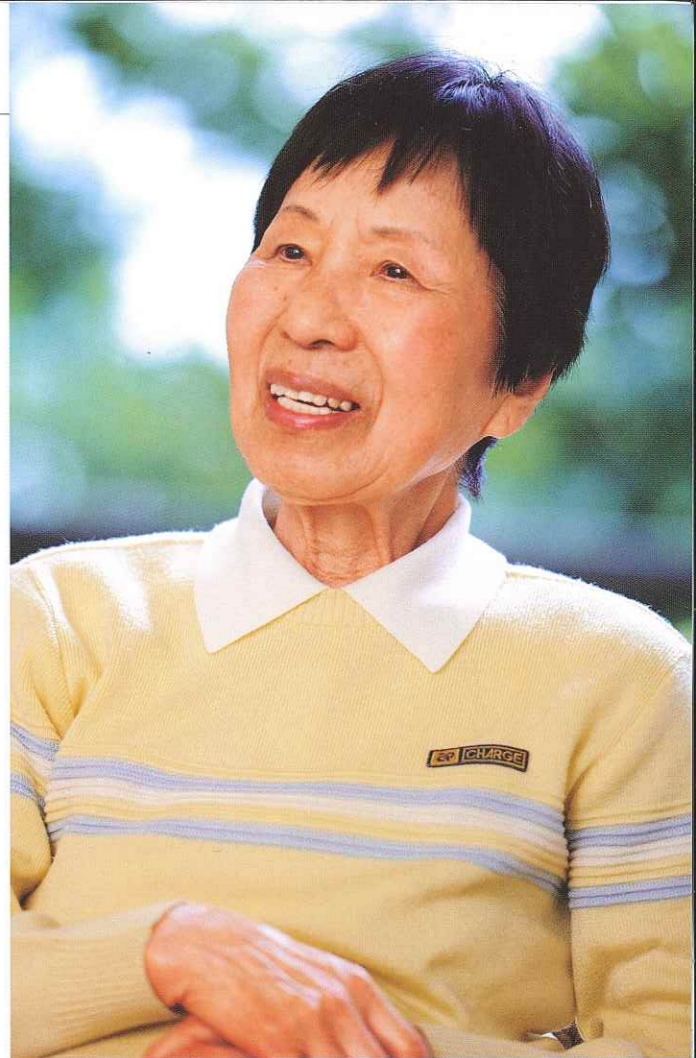
—それは本当に残念。すてきなお庭で、NHKのガーデニングの番組にも登場されていたり。カブトムシは最近どうですか?
岸中 前ほどはいないです。以前はね、ヘリコプターみたいに飛んでいましたからね。やっぱりね、前にもっと豊かだったと思います。昨夏は人間も息絶え絶えだったけれど動物や植物もね。

—緑豊かな健康都市立川ですものね。維持していかないと。このお宅は築何年くらいですか?窓が大きくて光がたくさん入るすてきな家。前には皆さんが集うログハウスもあって。
岸中 私が70歳の時に建てましたから、18年くらいかな。70歳にして家を建てるっていう(笑)。でも誰も驚きませんでしたよ。—(笑)岸中友子パワーですね。

岸中 それも住宅展示場に行って、展示してあるものより小さいスウェーデンハウスをってお願いして、自分で書いたものを基に設計してもらいました。

—岸中さんのその意欲というか、エネルギーって、もちろんこのお庭の木々から頂いているのだと思いますが、やはり自由学園で学んでこられた教育の力でしょうか。

岸中 そうでしょうね。神戸女学院はいい学校だったんですけどね、母が「婦人之友」を読んでいて、私は「子供之友」という本をあてがわれてね。どうしても自由学園に行きたくて、まだ終戦後半年でしたから、大阪から汽車に乗るんですけど、窓から



乗せてもらって、もう水平に乗ったままの態勢で。一度も足を床につけることなく東京へ来ました(笑)。

—ええ?何時間かかるんですか?
岸中 8時間くらい。よくお手洗いがもったなどと思って。池袋まで来たら、もう焼野原でね、何も無いの。自由学園は完全寄宿舎でね、とても厳しい。朝は5時に起きてお掃除をして自分たちの朝ごはんを作るところから始まって、生活の中で体を動かして、学間は死ぬまでやりなさいってね。今は学校法人になりましたけれど、当時は創立者もまだご存命で、文部省令に依らないから学校として認めてもらえないの(笑)。

—英語はどちらで?
岸中 自由学園を卒業してから神戸に帰って、パルモアというところで3年間。—外国の方ともお話しできるのはそういう下地があってこそなんですよ。
岸中 いいえいいえ、何も。岸中が姉妹都市のサンバーナディノや韓国の方たちを自宅で接待した時などは、皆さん、仲良くなりましてね。まあ、とりとめのないお話になってしまっただけです。

—いいえ、とても参考になりました。ありがとうございます。

—いいえ、とても参考になりました。ありがとうございます。

—いいえ、とても参考になりました。ありがとうございます。

結婚式、しようよ

Only Your Wedding Story

幸せにしたい、幸せになりたい、幸せになってもらいたい
想いを形に表して



結婚式の意味が希薄になった。面倒だったり、お金がかかったり、多忙だったり結婚式をしない理由の方が多すぎて、「結婚式はしなくてもいいんじゃないの」という風潮さえある。しかし、個性の時代。昔のように型にはまったものでなくても、幸せにしたい、幸せになりたいという新郎新婦の想い、幸せになってもらいたいという両親や親族の想いは、形に表してもらいたい。@うえでいんぐは、その想いの実現を応援している。

結婚年齢が高くなり、結婚式への出席回数が増えてくると、自分の時にはこうしようという思いが募るのは当然のこと。経験値がものを言ううまく取まるのならいいのだけれど、結婚式には喧嘩がつきもの。こんなはずじゃなかった…と後悔だけはしてほしくない。

とりあえず一緒に住んでから結婚式を、なんて言っているうちに多忙な毎日に流されて、いつのまにか子連れになった。けじめだから結婚式をそろそろしようかという頃には、もうお金がなくて式なんてとてども。こんなおふたりには、お金をかけなくても温かい家族の記念として式を挙げてもらいたい。

結婚式の前に、誰か私に相手を紹介してほしい。私は今が一番きれいだと思うのに、私の結婚式っていつ来るの？結婚式はまだまだだけど、今、きれいな私を写真で残しておこうかな…。そうですよ！近いうちにやってくるいつかのために、失敗しない自分作りを応援したい。

再婚の方にも結婚式を。再婚だから何もしないのではなく、二度目だからこそ、おふたりだけのための結婚式を提案したい。心のこもったセレモニーで、新しい門出を祝いたい。

ここまで大きな愛で育ててくれた両親に、お世話になった方々に、感謝の気持ちを伝えたい。言葉では言い尽くせない想いを応援したい。

いろいろなニーズに応じてくれる@うえでいんぐ。スタッフはたくさんのカップルやご家族に寄り添って、多くの結婚式を経験してきたウエディングプランナー。徹底した取材から選び抜いた100近い結婚式場やレストラン、ホテルから、お客様の希望に合った式場を探し出す。コンピューターで探すのではなく、声を聞き、目を見て話す血の通ったアドバイスがポイント。多摩地域はTAMAウエディング推進会(事務局:立川グランドホテル内)もあり、式場もレストランも充実、結婚式に力を入れているところ。

結婚式は自分が主役になれる人生最大のイベントだから、やっぱり、「結婚式、しようよ」。



ウエディング店内



店長の森田優美さん(@うえでいんぐカフェで)



@うえでいんぐ(あっとうえでいんぐ)
ららぽーと立川立飛2階
TEL 042-512-6711
<http://at-wedding.net>



若い力の勝利でした

1月17日(日)、立川市駅伝競争大会が開催されました。市庁舎西側をスタート、学術プラザ前で中継、ゴールする1周3.2kmのコース。昭和第一学園が1時間05分35秒で優勝しました。地区対抗の部は錦町体育会が1時間09分43秒で、中学生の部は、男子が立川三中陸上部Aが、女子の部も立川三中ソフトテニス部Aが優勝。昨年の一般の部では成人男子のチームが圧倒的な速さで優勝しましたが、今年は途中で抜かれても抜き返し、若い力が頑張りました! 毎年いろいろなチームが参加し、とても楽しいイベントです。



スターターは清水庄平立川市長



昭和第一学園チームがトップでゴール



昭和第一学園高等学校のみなさん



研究機関も走ります 小濱塾のみなさん



医療機関も走ります 西砂歯科医院のみなさん

みどり地区の凧揚げ大会

1月16日(土) 風のない穏やかな日和にみどり地区凧揚げ大会が開催され、300人近い市民が集まりました。風がないので走り回らないと凧が上がらず、思いがけずいい運動! 豚汁もふるまわれ楽しい休日になりました。



サイエンスカフェ

極地研のサイエンスカフェがアレアレアにやってきます! お話をしてくれるのは伊村智教授。題して「南極の極限環境に生命を探す!」楽しみです。今回は南口にある入船茶屋の懐石弁当と飲み物で談笑してからサイエンスのお話に。日時は3月12日(土) 13時から。事前申込が必要です。詳細とお申込みは極地研のHPからどうぞ!

